

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成25年7月19日 NO.34

オー君 「わーい、ヤッター！明日から夏休みだ！」

花ちゃん 「ほんと、ほんと、うれしいわ。」

モンタ博士「でもね、交通事故や病気には気をつけるんだよ。」

オー君 「おいら、今年の夏は、とことん昆虫採集しよう
と思っているんだ。学校の近くには自然が
いっぱいだ。ちょいと足をのばして、『ハケ』や
『おんだし』の方に行けば、いろいろいるぞ。
カミキリだってわんさかさ。城山の方に行けば
また、いろいろいるぞ。国立には、自然の野山
や川がいっぱいだ。ばんざーい。」



花ちゃん 「私は、あちこちで見られるお花をたくさんスケッチしたり、草花の標本作り
にもチャレンジするつもり。それから星の観察もしようと思っているの。」

モンタ博士「それはいいね。8月13日午前3時ころには、ペルセウス座流星群が最大に
なるんだ。たくさんの流れ星が見えて、それはそれはすばらしいよ。ところ
で、長い夏休みには、どこか遠くへは行かないの。」

オー君 「あのね、おいらの父ちゃんは、サーファーなんだ。そんで、
海に行くんだけど、サーフィンもやってみるけど、おいら
海岸（かいがん）の生き物を見つけないだ。」



花ちゃん 「そうね、国立は海が近くじゃないから、それもいいね。」

モンタ博士「海の生き物か。いろいろ調べたらモンタ博士にも教えてね。」

オー君 「まかせといてください。ところで、モンタ博士は、どんな夏休みなの。」

モンタ博士「本当は5回目の西表島（いりおもて島）に行きたいと思っているんだけど、
一人であちこちとてくてくしすぎでうちの人がブーイングがあっけね。」

花ちゃん 「それで、それで…」

モンタ博士「だからあまり遠くへは行けないけど、それでもいいんだ。大切な事は、身近な自然をしっかりと見る事だからね。国立市内の夏の虫と植物を徹底的に調べようかと考えているんだよ。」

オー君 「ところで、夏休みは、ふだんあまりできないことにチャレンジするんだよね。」

花ちゃん 「ねえ、オー君。ふだんあまりやらないお勉強もたまにはがんばらないといけないですよ。」



オー君 「まいっちゃうな。落ちこむ事言わないでくれ。今年の夏、おいらは生まれ変わって、昆虫採集だけじゃなくて、読書や学校のプール、国語と算数のプリント学習、漢字ドリル練習、それに自由研究もしっかりやるぜ。」

花ちゃん 「えらいな。感心だわ。私も負けずにがんばりまーす。」

モンタ博士「小学校生活の夏休みというのは、6回だけだ。思いっきり楽しんでほしいね。何度も何度もいうけど、事故や病気のないようにね。そして、9月2日（月）には、二人とも、それから、『国立てくてく』を読んでいる君も、すばらしい夏休みにして、真っ黒に日焼けして、一段とたくましくなった顔を見せてほしいね。」

夏休み…天声人語より転載

夏休みというとな何を思い出すか。仲間たちの話を書き並べるとざっと次のようになる。早朝のラジオ体操、油照りの日の打ち水、田んぼでのドジョウを取った事、ぬるぬるした泥の感触、へびを殺したこと、つり竿の先に赤い布をつけてカエルを取ったこと。自分で育てたアサガオの花、アサガオの花びらをしばってままごとのジュース、ホオズキ、草笛、クワガタ、アリジゴクに吸い込まれるアリの姿、セミとり、夕空に浮かぶヤンマの群れ、近所の仲間と海に泳ぎに行ったこと、ひと夏に二度は皮をむいたこと、近所の川でもぐりっこをしたこと、ヒマワリの花。裏山の基地、つまり隠れ家を作ったこと、木の上に足場を組んで小屋をたてたり、段丘に3mの横穴をあけたりしたこと、原っぱでの三角ベース、草いきれの中で探したゴムマリ。水鉄砲、ビー玉、お化け大会、ゆかたを着て盆踊りの輪の中に入ったこと、線香花火、校庭の映画会、井戸で冷やしたスイカ、トマト、よしず張りの店のかき氷、アイス、蚊帳の中の怪談。

夏休みは本来、子どもを解放し、「遊び」という子どもにとって最も大切な営みを、体で体験させる期間だろう。今も夏休みになれば子どもたちは遊ぶ。海で泳ぎ、セミを取り、クワガタを追う。

だがそこには、大きなさま変わりがある。塾に通う日が多い。遊ぶにしても禁止区域、禁止事項が多い。学校のプール、臨海学校、林間学校など、おとなの目が行き届いている所で遊ぶ。昔は昼も夜も、仲間同士で遊んだが、今は金のかかる家族旅行が多い。

何より違うのは、土や砂の上にしゃがみ、大地になじみながら遊ぶ機会が激減したことではないだろうか。大地になじむ機会を奪われた子どもたちの欲求不満は内にたまる。子どもの世界から身近な自然を奪ったおとなの責任は大きい。